

第1章 計画策定の趣旨

「奥州市水道事業ビジョン」（2018年度～2027年度）の行動計画となる「第2次奥州市水道事業中期経営計画（後期計画）」を策定し、引き続き効率的で安定した経営を進めていくものです。

第2章 計画の期間

2023（令和5）年度から2027（令和9）年度までの5年間

第3章 事業運営の基本方針

【安全】誰もがいつでも安心して飲める水道水を供給します

【強靱】自然災害による被災を最小限にとどめる強くしなやかな水道水を目指します

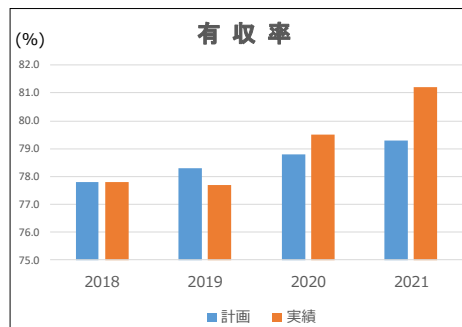
【持続】いつでも安全な水道水を安定的に供給できる最適な事業形態を目指します

第4章 前期5か年の計画と経過及び実績

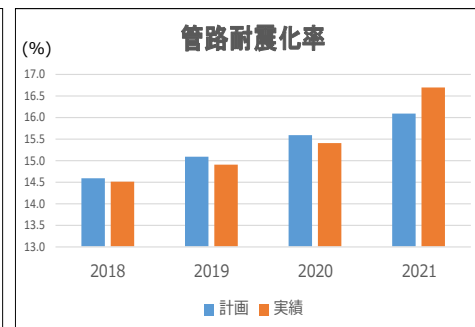
1 前期収支計画の推移（2018(H30)年度～2021(R3)年度）

収益的収支	収益は、給水戸数の増加により普及率が向上したことなどから、営業収益全体で、計画値に対し年間約61百万円の増 費用は、維持管理経費のうち修繕費が減少傾向にあるものの、受水費の増加などにより、営業費用全体で、計画値に対し年間約10百万円の増
料金適正化	現在の水道料金は、2015(H27)年4月に改定したもの。2018(H30)年度と2021(R3)年度は一般会計からの繰入もあり、収支均衡が図られる見込みとなったことから料金改定を見送ったが、水道水を供給するために必要な費用は料金収入では賄えていない状況
経費節減等の取組みによる効果額	料金収納及び施設維持管理に係る包括業務委託に給水装置工事関連業務を追加して継続（2021(R3)年度） ※経費節減効果60百万円（人件費分9百万円、収納率向上分51百万円）
企業債残高の推移	2021(R3)年度末残高14,359百万円、2018(H30)年度末残高比較で801百万円の減

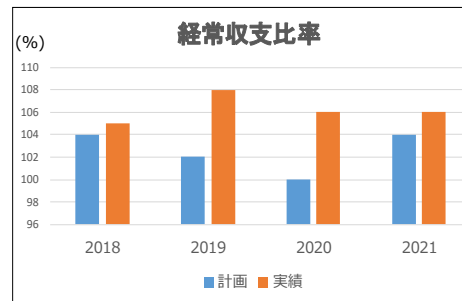
2 中期指標の達成状況



有収率：総配水量に対する料金徴収の対象となった水量の割合。高いほどよい。



管路耐震化率：すべての管の延長に対する耐震管の延長の割合。高いほど耐震性がある。



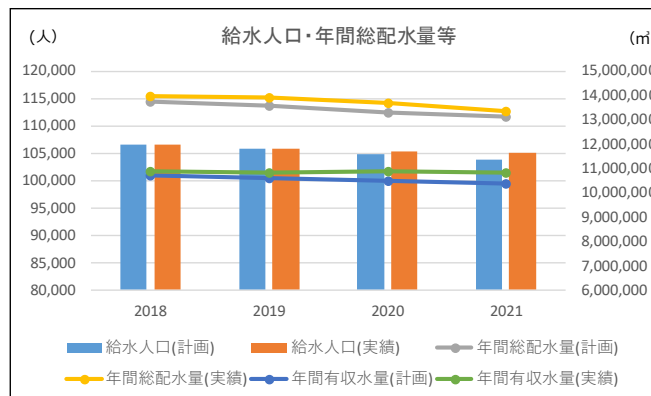
経常収支比率：経常費用が経常収益によってどの程度賄われているかを示す。高いほどよい。

2021(R3)年度末の有収率は81.2%で計画値79.3%に対し1.9%の増

管路耐震化率は16.7%で計画値16.1%に対し0.6%の増

経常収支比率は106%で計画値104%に対し2%の増

3 給水人口と水需要の実績



給水人口は、人口減少に伴い減少傾向にあります。

それに伴い、年間有収水量も減少し、水需要が減少しています。

4 主要施策の実績

- 創設事業：受水計画を見直し、自己水源の統廃合と併せて配水計画を変更しました。
- 耐震化事業：設計業務を主に事業を進め、耐震化の促進を図りました。特に、胆江広域水道用水供給事業からの受水に伴い、自己水源系施設の統廃合計画を見直しながら進めました。
- 管路更新事業：新小谷木橋建設に伴う管路布設事業及び石綿セメント管更新事業など、概ね計画どおり進めました。
- 施設改修事業及び施設整備・更新事業：更新計画を見直しながら進めました。

○ 主な施設整備実績

(2018(H30)年度～2021(R3)年度)

事業名	事業内容	総事業費(千円)
創 設 事 業	奥州金ヶ崎行政事務組合からの広域受水のための配水施設整備等	986,038
耐 震 化 事 業	重要施設の管路耐震化のための布設替、施設の耐震詳細診断等	133,718
管 路 更 新 事 業	管路の計画的更新・移設・布設等	2,237,386
施設 改 修 事 業	水道施設の整備・維持補修・更新等	1,356,538
施設整備・更新事業（維持）	ポンプ等の設備機器の計画的な更新 定期的な漏水調査等	887,541
合 計		5,601,221

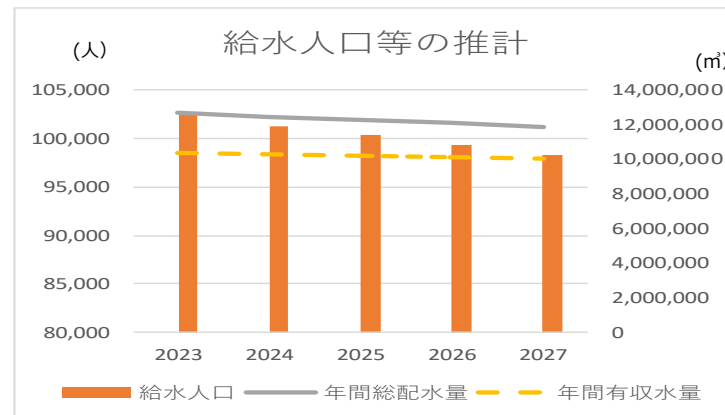
5 実績の評価

水需要の減少を考慮した用水供給事業からの受水切替えや、水道施設の統廃合及びダウンサイジングによる経費の削減に取り組むほか、定期的(3年毎)な水道料金の見直しなど、今後も水道事業を持続させていくために必要な財源を確保することが課題としてあります。

第5章 事業計画

引き続き、「水道事業ビジョン」に基づき事業計画を定め、安全・強靱・持続を基本方針とし、ダム受水による施設の統廃合など水道事業のさらなる経営の効率化を進めながら、経営基盤の強化に取り組めます。

1 水需要の見通し



	2023(R5)	2024(R6)	2025(R7)	2026(R8)	2027(R9)
給 水 人 口	102,398	101,344	100,391	99,416	98,329
年間総配水量	12,718,425	12,482,635	12,281,520	12,097,195	11,895,350
年間有収水量	10,390,820	10,298,110	10,230,585	10,161,600	10,087,140

今後の水需要については、下水道の普及や核家族化による給水戸数の増加は見込まれるものの、人口減少により、更に水需要が減少するものと予想されます。

2 実施計画

【安全】・広域受水施設の整備

- ・老朽管更新
- ・水質検査計画・結果の公表など

【強靱】・水道管路及び施設の耐震化

- ・災害時応急対策など

【持続】・定期的(3年毎)な料金の見直し

- ・アセットマネジメント
- ・顧客サービスの向上やお客様ニーズの把握など

○ 主な施設整備計画

(2023(R5)年度～2027(R9)年度)

事業名	事業内容	計画値
創 設 事 業	・奥州金ヶ崎行政事務組合からの広域受水のための配水施設整備	1箇所 0.6km
耐 震 化 事 業	・重要給水施設への管路耐震化のための布設替 ・需要度の高い施設の耐震詳細診断	6.0km 12箇所
管 路 更 新 事 業	・法定耐用年数を超えた管路の計画的更新 ・強度が低い石綿管を耐震管へ更新	24.7km 1.5km
施設 改 修 事 業	・自然災害等に対応することができる水道施設整備 ・老朽化対策及び維持管理などの向上のための水道施設整備 ・老朽化した施設の長期有効活用するための維持補修 ・水道施設配水池等の清掃点検 ・適正な配水水压を確保するための管路更新や減圧弁の設置	2箇所、0.5km 1箇所、0.2km 5箇所 88箇所 12箇所
施設整備・更新 事業（維持）	・ポンプ等の設備機器の計画的な更新 ・定期的な漏水調査	396箇所 2,300km

3 中期指標（目標数値）

○ 年度別目標数値

(単位:%)

項目 \ 年度	R5	R6	R7	R8	R9
有 収 率	82.0 (80.3)	82.4 (80.9)	82.8 (81.4)	83.2 (81.9)	83.6 (82.4)
管 路 耐 震 化 率	17.7 (17.1)	18.2 (17.6)	18.7 (18.1)	19.2 (18.6)	19.7 (19.1)
管 路 耐 震 適 合 率	43.8	43.9	43.9	44.0	44.0
経 常 収 支 比 率	101.6 (100)	106.4 (103)	105.3 (102)	103.7 (101)	109.1 (105)
料 金 回 収 率	83.6	84.2	84.2	82.6	89.4

※1（ ）は奥州市水道事業ビジョンにおける目標値

※2 経常収支比率及び料金回収率は、料金改定を2024年度と2027年度に見込んだ数値

第6章 計画達成状況の公表

1 公表時期 年1回（9月議会後）

2 公表方法 広報誌及びホームページにおいて公表

3 計画達成状況の評価方法 中期指標（目標数値）との比較

※お客様満足度調査（アンケート）の集計結果（2026(R8)年度）

第7章 計画策定後のフォローアップ

PDCAマネジメントサイクルの手法により、必要に応じて計画を見直し、継続的に改善を図ります。

★用語解説

用 語	解 説
有 収 率	総配水量に対する料金徴収の対象となった水量の割合。高いほどよい。
管 路 耐 震 化 率	すべての管の延長に対する耐震管の延長の割合。高いほど耐震性がある。
管 路 耐 震 適 合 率	すべての管の延長に対する耐震適合性のある管の延長の割合。高いほど耐震性がある。
経 常 収 支 比 率	経常費用（営業費用及び営業外費用）が経常収益（営業収益及び営業外収益）によってどの程度賄われているかを示す。高いほどよい。
料 金 回 収 率	給水原価に対する供給単価の割合。高いほど収益性がよい。